

# 構造改革特別区域計画書

## 1 構造改革特別区域計画の作成主体の名称

上田市

## 2 構造改革特別区域の名称

菅平小中一貫教育特区

## 3 構造改革特別区域の範囲

上田市の区域の一部（菅平小中学校区）

## 4 構造改革特別区域の特性

菅平高原は、上信越高原国立公園の中にあり、四方を山に囲まれた盆地には集落が点在し、住民の多くは農業・観光業に従事している。

現在の集落は、かつては四阿山の火山活動により、谷が堰き止められた湖の湖底であったとされている。その後堰き止められていた水が流れ出し、地表に現れた湖底に葦（よし）や菅（すげ）などの植物が育つようになり、それらが朽ち果て堆積して泥炭層ができ、現在の菅平高原独特の表土黒土となった。

旧石器時代から人が住み、万葉集にも「信濃なる菅我の荒野にほととぎす鳴く声聞けば時すぎにけり」と、万葉の頃の菅平を詠んだとされている詩が残されている。また、江戸時代には大笹街道が物流を支えてきたという長い歴史がある。

特に、江戸時代には1617年に松代藩主真田信之に預けられていた加藤丹後守道句が菅平の開拓を試み、農業を始めた。以来、江戸時代末期には定住する者も出て、本格的な農業が定着した。

8月の平均気温が19℃、1月平均気温-5℃、年平均気温6℃という冷涼な気候を利用して、農業の発展が続いてきた。開拓期（明治中期以前）、養蚕期（明治中期～第2次世界大戦）、蔬菜発展期（1945～65年）、蔬菜充実期（1965年以降）の4段階で発展し、薬草中心の開拓期から、馬鈴薯・キャベツ・白菜などの露地野菜中心の時期を経て、現在はレタス中心の農業へと移行している。農業の発展には地域的なまとまりの良さも大きな力を発揮し、農業技術の発展に寄与してきた。菅平の農業従事者の農業への関心は高く、意識調査で「今後も20年以上農業を継続したい」が全体の52%を占めたという報告もある。

一方、観光面では、昭和2年(1927)にスキー場が開発され、翌昭和3年には写真雑誌にて「日本ダボス菅平高原」と紹介され、「日本のダボス」という別名が生まれた。昭和5年には、オーストリアのスキーの名師ハンネス・シュナイダーが菅平を来訪し、スキーが盛んになる。昭和11年、菅平シーハイル（歌と踊り）が創られ、スキー場関係者が各方面に出てはスキーの普及と菅平の宣伝に努めた。以後スキー人口の増加と共に、冬のスポーツとして盛んになり、訪れるスキー客も増大し、夏のレタス畑は冬のゲレンデに活用されるとともに、ホテル、旅館、民宿の数も増え、レジャース

キーの拠点として名声を得てきた。スキー人気がピークを超えた 1980 年代の終わり頃からは、高地トレーニングへの適性にも着目し、ラグビー・サッカー・陸上競技などの合宿招致にも力を注ぎ、現在では「ラグビー合宿のメッカ」とも言われている。

農業と観光を主に共存・共栄する強い地域特性がある一方で、子どもたちの中には、拠って立つ独自の歴史や文化、生活を支える農業主産品や観光産業に対する興味や関心が必ずしも高くない。地域の理解と愛着が薄れつつある中、近年では若者の流出傾向も見られ、地域の活性化に向けた人づくりは大きな課題ともなっている。

このような状況にあって、義務教育の場においても、地域の特性を正面から多角的に捉え、基礎的な学力として定着させることにより、更なる農業収入向上を目指した品種、作物の開発や滞在型リゾート地への発展等、地域を支える人づくりに結び付けて行く取り組みが特に求められている。

## 5 構造改革特別区域計画の意義

### (1) 地域を支え将来を担う人材の育成

上田市では、「大好き上田、やる気いっぱい、笑顔いっぱい」のテーマの下、「愛」「学び」「つながり」の視点で「ふるさとを愛し、興味や探求心をもって自ら学ぶ意欲を大切にし、家庭や地域のつながりの中で、生きる力を身につけて欲しい」という願いを込めて、幼・保・小・中一貫した子育てのスローガン「かがやけ上田の未来っ子」を掲げ、心豊かな人づくりとまちづくりをめざしている。

「まちづくりは人づくり」「人づくりは教育から」とする認識の中で、地域の活力を支えるため教育の果たす役割は大きい。学校教育の場においても、必ずしも一様でない地域ごとの特性を更に具体的に捉え、これに即した教育活動を行うことが特に必要であり、このことが家庭、地域、学校が互いに教育のパートナーとして連携を高め、地域の活力を支える人づくりに資するために重要である。

- 市街地とは地理的にも一線を画し、農業と観光が共存する菅平地域では、拠って立つ地域性から、  
農業の継承と新たな農業開発で発展を図る
- 長期滞在型リゾート地への転換で発展を図る
- 外国からの観光の誘客とそれに対応可能な組織を立ち上げて通年観光を図る

ことを将来展望に掲げ、これらの地域課題を負って立つ人材の育成が小・中学校における学校教育の場においても特に求められている。

そのためには、菅平地区としての課題に応じた学習を、小・中一貫したスパンの中で計画的に、体系的行うことが必要である。菅平の自然及び地理的条件を生かした校技としてのスキー活動や、小中併設校の利点を生かしながら、最大限に活用することで、郷土に学び、郷土を愛する心、そして、国際化に対応する英会話の力などを子ども達に確かな学力として身につけさせ、地域を支える人材の育成に結びつけていきたい。

### (2) 小中一貫した学習指導の実施

菅平小中学校区は小中併設の小規模な校区でもあり、幼・保適齢期から小学校、中学校を卒業するまで、同一の構成メンバーによる少人数での学校生活を余儀なくされていることもあり、友達への固定的な見方や序列なども生じている。これらの課題に対しては、併設校の利点も生かしながら、小・中教員が相互に連携し、生徒指導上の配慮により課題の解消に努めているが、更に一步踏み込

み、小中で重複した学習内容を統合・整理し、9年間の連続性・継続性を重視した教育課程の下に、必要に応じ小学校、中学校各教員が、その専門性を生かしながら学習指導に関わる等、学習指導面においてもより多角的・多面的に関わることで、児童・生徒個々の良さを導き出し、課題を排していくことが可能であると考えられる。

郷土に学び、郷土を愛する心を育むことを主眼として新設する「すがだいらの時間」では、9年間一貫したカリキュラムにおいて、各教科における学習指導内容を踏まえながら、小学校・中学校教職員による相互の連携により持ち味を生かした指導が可能であり、子どもたち一人一人の個性や能力を最大限に伸ばしながら、魅力ある教育活動の展開が期待できる。

## 6 構造改革特別区域の目標

上田市が教育理念として掲げる「かがやけ上田の未来っ子」には、地域の人々の多くの思いが込められている。人々とのコミュニケーションや自然とのふれあい、地域の伝統の体験などを通して、「ふるさと上田を愛し、興味や探求心をもって自ら学ぶ意欲を大切にし、家族や地域のつながりの中で、生きる力を身につける」ことである。地域の活力は、とりもなおさずそこにある住民の力でもあり、人材の育成は菅平地区においても重要な課題として、学校教育の場においても地域に密着した教育活動が特に求められていることから、本計画の特定事業により、基本的な方向として、次のような子どもの育成を目標としていく。

菅平の歴史，文化，自然を未来につなげる子ども

菅平に暮らすことに誇りと喜びを感じる子ども

具体的には、菅平地域の歴史や文化、産業、自然に対する理解と愛情を育て、農業と観光が盛んなふるさと菅平の良さを継承し、時代の農業先進地及び国際的な観光地を創造するとともに、国際社会に生きるために必要な資質の基礎や、厳しい寒さにも負けない強い心体を持つ人材を育てることを目標に、「すがだいらの時間」を新設する。

「すがだいらの時間」における学習内容は、各教科における学習内容を踏まえながら、大きく次の3つの内容を、より地域に即し複合的に深化させ、新たな領域として捉えたものであるが、地域における学校教育の視点をより明確に掲げ、意識的な運営を行うことにより、地域を担い、地域の振興に寄与する人材の育成に資するものである。

校技スキー

- ・冬の厳しい寒さや降雪を如何にして克服するか、先人達が苦闘してきた課題も、昭和初期のスキー場開発と全国的なスキーブームによって解決され、一躍観光地としての名をはせた菅平である。バブル崩壊と共にスキーブームが去り、地球温暖化による年平均気温の上昇が追い打ちをかけて、日本のスキー産業が衰退の一途をたどる中、菅平も苦しい状況にある。高冷地という自然環境を利点に、この苦境を乗り越えていくためにも、郷土を理解し郷土を愛する人づくり、スキーを心から楽しみ愛する人材の育成が重要である。
- ・アルペンスキーやジャンプ競技を楽しめるゲレンデまで学校から徒歩で5分、校庭を中心に周囲の畑を利用したクロスカントリーコースの設置が可能な環境の中でスキーを校技として、基本技能から応用技能まで技術面をはじめ、スキーの楽しみ方やマナー等について、学年の発達段階に応じて指導し、充実したスキー活動を通して今後の菅平を担う人材の育成を目指す。

菅平の歴史・文化・産業・自然

・観光と農業の菅平に生き、これからの地域づくりの発展に尽くしていこうとする人づくりに欠かせないのは、児童・生徒が自分達の住んでいる郷土を知り、郷土を愛し、郷土で生きることにより誇りを感じる学習を進めていくことである。菅平には、地域住民が現在の活動の拠点としている盆地状の場所が、火山活動をはじめ大自然の大きな力の中で誕生した地質学的な歴史、江戸時代から厳寒の地で野菜作りに挑戦して開拓を続けてきた農業の歴史、地域の将来を見据えて、農業の他にも経済的な収入を得る手段を考えた観光の歴史など、菅平独特の文化があり、自然環境がある。

・また、菅平には、菅平湿原があり、葦（よし）や菅（すげ）、カラフトイバラなどの植物が群生し、イワナやヤマメ、モツゴ等の魚類やクロサンショウウオ、イモリなどの両生類も多く棲息している。また、トンボをはじめ多種類の昆虫や野鳥の宝庫でもある。

・これらを活用した自然体験や社会体験などの、体験的な学習を行うことにより、郷土を愛し、郷土で生きることにより誇りがもてる人材の育成を目指す。

#### 英会話

・国際化が進む社会において、国際的な共通語である英語の習得が求められている。英語によるコミュニケーション能力を身につけることが、子ども達にとって今後活躍していくために必要な力になる。とりわけ観光地にあつては、今後増加していくであろう外国からの観光客を確保するためにも、英語を中心とした外国語での接客や国際感覚が必要となってくる。

・これらのことから、英語によるコミュニケーション能力を高めることをねらいとし、「聞く・話す」ことを中心とした英会話の確実な修得を目指す。

また、小中の9年間を通して教育課程を見ると、一部教科において小学校で学習したことを中学校で再度扱う部分も見られる。

特に、小中併設の環境にある本校においては、中1理科「大地の変化」と小6理科「大地のつくりと変化」、中1理科「植物の世界」と小6理科「植物と日光」において、次の展開を熟知している中学校の教科担任が関わることにより、先を見通した学習展開が期待出来ることから、小中一貫した連続性・継続性のある学習指導の実現を目指す。

## 7 構造改革特別区域の実施が構造改革特別区域に及ぼす経済的社会的効果

(1) 長期的、継続的に優れた人材を育成することにより、本校で学んだ子ども達が将来、地域を担う人材として、地域の振興に寄与することができる。

#### 観光・農業・スポーツエリア「菅平」の伝統を受け継ぐ人材の育成

・地域の支援を受けて行われるスキー活動を通して、地域が一体となって学校の教育活動や児童・生徒の育成を期待をもって応援してくれていると感じ取り、地域にとってのスキー観光の重要性を体得する。

・畑での農作物栽培、農業・スキー場・観光業の歴史学習等を通して、先人の苦勞を肌で感じ、現在の充実した菅平の姿に感謝する心を育む。

・ふるさと菅平を誇りに思い、心から大切にしようとする心情を育む。

#### 菅平を「長期滞在型リゾート地」に変えていく原動力となる人材づくり

・地域の可能性を広げていくために、夏の観光では、周りにある川・林・草原などの豊かな自然を利用した滞在型リゾートづくりが可能であること、冬の観光では、クロスカントリー

ースキー、スノーシュー等を利用した冬の山岳ハイクや山スキーを楽しむことが可能であること、また、温水プール及び温泉の利用も可能であることなどの学習を通して、自ら視野を広げたり、視点を変えて考える物の見方を身につける。

外国からの誘客が実施できる人材の育成と組織づくり

- ・英会話を中心とした語学により、英語力と国際感覚を身につけて、将来観光に携わるようになり、ホスピタリティあふれる観光地づくりに役立つ。
- ・看板，案内に英語をはじめ、外国語での表示を行い、案内，応答が英語ならできるエリアの設置と拡大を図っていく。

新たな農業を開拓していく人材の発掘・育成

- ・農業体験や農業開拓を続けてきた先人の苦労や工夫を学び、将来の地球温暖化による影響を考慮して、菅平の気候に合った農作物の品種改良や新たな農作物の開発等活気のある農業経営をめざす人材を育成する。

( 2 ) 菅平小中学校における小中一貫教育の研究開発の成果による地域の活性化

- ・学校の地域の文化情報基地としての位置づけが更に高まり、地域住民に対して地域の産業や自然環境に対する理解と啓発をもたらすことができる。

## 8 特定事業の名称

番号( 8 0 2 ) 構造改革特別区域研究開発学校設置事業

9 構造改革特別区域において実施又はその実施を促進しようとする特定事業に関連する事業その他の構造改革特別区域計画の実施に関し地方公共団体が必要と認める事項

( 1 ) 菅平小中一貫教育校推進委員会の設置

本校が計画している小中一貫教育の目的達成のために必要な調査・研究及び指導・助言をする。

( 2 ) 教職員研修の充実 ~ 各種研修における指導者の派遣 ~

英会話の学習指導に関する研修

- ・英語科教員及びALTの指導の下に、指導法，教材作りなどを行い、指導法の研鑽に努める

・県教育委員会派遣の指導主事による、授業研究や教材づくり等、指導法の研究

菅平の歴史，地質学，農業，文化等に関する研修

- ・地域の人材及びその道の専門家を活用して指導を受ける

( 菅平には、文部科学省体育研究所をはじめ、筑波大学，電気通信大学の研究所がある )

校技スキーの指導に関する研修

- ・アルペン，クロスカントリー，ジャンプの各セクションについて雪上実習を含む研修

( 3 ) 上田市次世代育成支援行動事業

子ども達の健やかな育成に取り組む「上田市未来っ子かがやきプラン」を具現化する上田市次世代育成支援行動事業で得た成果を本計画にも活用する。また、本計画での実践が新たな視点を提供

することにより、これまでの事業の推進に役立てる。

(4) 校技スキー改革プログラム事業

小学校低学年……地域の人材を派遣してスキー活動における基礎部分の学習指導にあたる。

小学校4学年以降……地域スキークラブからの派遣及び県の事業によるスポーツエキスパート事業の活用(中学校)により指導者を派遣し、技能面での指導にあたる。

## 別紙

### 1 特定事業の名称

802 構造改革特別区域研究開発学校設置事業

### 2 当該規制の特例措置を受けようとする者

上田市立菅平小学校・菅平中学校

### 3 当該規制の特例措置の適用の開始の日

平成20年4月1日より

### 4 特定事業の内容

(1) 事業主体 上田市

(2) 事業が行われる区域 菅平小・中学校区

(3) 事業の実施時期

平成20年4月1日から下記5の(2)の教育課程の基準によらない部分が教育課程の基準内になるように学習指導要領が改訂されるまでとする。

(4) 事業により実現される行為や整備される施設など

9年間にわたる「すがだいらの時間」の実施により、小中一貫教育を重視した教育課程を実施し、観光・農業・スポーツエリア「菅平」の伝統を受け継ぐ人材の育成が可能となる。

### 5 当該規制の特例措置の内容

(1) 取り組みの期間等

平成20年4月に事業を開始し、平成23年度に、事業についての評価・見直しを行う。

(2) 学習指導要領の基準によらない部分

9年間を通してふるさと教育を充実させるための「すがだいらの時間」を新設する。

小学校1年は年間40時間、小学校2年は年間45時間、小学校3年から小学校5年及び中学校1年から中学校3年までは年間10時間、小学校6年は年間8時間を、新たに「すがだいらの時間」に充てる。

小学校3年～中学校3年は、総合的な学習の時間から47～77時間を供出して、「すがだいらの時間」に充てる。

(小3:54 小4:55 小5:77 小6:57 中1:58 中2:57 中3:47)

中学校1年の理科「大地の変化」において学ぶ内容を一部、小学校6年理科「大地のつくりと変化」の中で指導する。

中学校1年の理科「植物の世界」において学ぶ内容を一部、小学校6年理科「植物と日光」の中で指導する。

### (3) 計画初年度の教育課程の内容等

#### 【「すがだいらの時間」の教育内容及び実施方法について】

「すがだいらの時間」の目標は、次のとおりである。

菅平の歴史や文化、産業、自然に対する理解と愛情を育て、農業と観光が盛んなふるさと菅平の良さを継承し、次代の農業先進地及び国際的な観光地を創造するとともに、国際社会に生きる人として必要な資質の基礎や厳しい寒さにも負けない強い心と体をつくりあげる。

「すがだいらの時間」の目標は、次の三つに大別することができる。

第一は、菅平の歴史・文化・産業・自然に対しての理解と愛情を育むことである。ふるさと菅平の厳しい自然環境の中で開拓を行い、高原野菜の産地として築き上げた先人の努力と工夫や、厳しい冬の寒さや夏の冷涼な気候を観光資源として売り出した知恵など、菅平の文化や産業の歴史について、調査活動や体験的な学習を通して育てられるものと考え。また、昔の菅平を物語る菅平湿原について、その誕生から現在までの変遷、そこに生息する動植物の生態を観察したり触れたりする体験的な学習の中で養っていく。ふるさと学習「すがだいらの時間」では、自分たちが住んでいる菅平を知り、菅平を愛し、菅平で生きること誇りがもてる児童・生徒の育成を図ることを大きなねらいとしている。

第二は、国際的な観光地を創造するとともに、国際社会に生きる人として必要な資質の基礎を養うことである。国際社会に生きる人として必要な資質とは、地域の一員としての役割を理解し、国際的な観光地をめざす菅平の担い手としての自覚や豊かな心を持ち、地域の発展に尽くそうとしたりする態度や、ひと・もの・ことに関わろうとするコミュニケーション力、自ら考え問題を解決する力、情報発信力などの能力のことである。本校は、これまでも総合的な学習の時間において、国際理解教育の一環として英会話に取り組んできたが、「すがだいらの時間」に移行し、内容を更に充実させて学習に取り組む。指導は、学級担任、英語科教員及びALTがあたり、コミュニケーション能力を高めることをねらっていく。

第三は、菅平の厳しい寒さにも負けない、強い心と体を作り上げることである。本校は、スキー活動を校技として取り入れ、冬の体験的な学習の柱としている。学校と地域が一体となって、子ども達のスキー活動に関わっていく。スキー場を利用したアルペンスキーは勿論、校庭や周辺の畑を利用したクロスカントリースキー、スキー場に併設されたジャンプ台など、自然環境や人的環境、地理的にも施設にも恵まれた環境を生かしたスキー活動の中で、子ども達がそれぞれの課題をもって主体的に取り組み、スキー活動の楽しさや課題達成の喜びを体験することをとおして、寒さにも負けない心と体をつくりあげることができると考える。

これらの資質の基礎を養うためには、問題解決的な学習など、児童生徒の主体的な学習をいっそう重視することが大切である。地域へ出かけ、人に出会ったり、小川や湿原など自然の構造物などに出会い、直接体験することにより、地域に対する関心が高まり、学習への意欲が湧いてくる。それが菅平の将来を考えることにもつながり、次代の菅平の担い手の育成にもつながっていくと考える。



「すがだいらの時間」

【スキー活動】

	学年目標	主な内容	時数
小学校1年	・スキーを楽しむための基本的な動作を身につける。	・アルペンスキー、クロスカントリースキーの基本的な動き方（滑る・止まる、曲がる）を身につける。 ・練習場所の使い方やマナーについて学習する。 ・保護者にも指導をお願いして、基本技能を高める。	15
小学校2年			15
小学校3年	・アルペン、クロスカントリー、ジャンプの基礎を身につけ、セクションを選択するための準備をする。	・長寿会にも指導をお願いして、アルペン、クロスカントリーの基礎練習を行う。 ・週に1回セクション巡りを行い、各セクションでの練習を体験する。	20
小学校4年	・自分に合ったセクションを選択し、課題追究の中で技能を習得する。	・アルペン、クロス、ジャンプから選択し、基本技能を修得する学習を行う。 ・大会参加も視野に入れて、簡単な競技規則や競技に対応できる技能を身につける。	15
小学校5年			15
小学校6年			15
中学校1年	・4セクションから自分に最も合った種目を選択し、課題追究をする中で技能を磨き、競技会や技能検定に挑戦する。	・アルペン、クロス、ジャンプ、基礎から選択し、それぞれの課題に応じて基礎練習、競技会や技能テストに対応できる技能を身につける。	30
中学校2年			30
中学校3年			10

【菅平の歴史・文化・産業・自然についての学習】

	学年目標	主な内容	時数
小学校 1 年	<ul style="list-style-type: none"> <li>菅平湿原の四季の移り変わりを体感する。</li> <li>菅平湿原では、多くの種類の植物が生えていたり動物がいることに気づく。</li> <li>季節によって、動植物の生態が変わることに気づく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校周辺の探検（畑，旅館やグラウンド，湿原等）</li> <li>四季を通しての湿原の観察動物や植物の四季による変化</li> </ul>	15
小学校 2 年	<ul style="list-style-type: none"> <li>菅平湿原の動物や植物を間近で観察して、動物や植物が厳しい自然環境に適応して生き続けていることを知る。</li> <li>菅平には畑や旅館，グラウンドや体育館など、観光に関わる施設が多いことが分かる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>春の木々の芽吹きや動物の生命の誕生</li> <li>湿原の動物（昆虫，魚類，両生類）や植物の種類調べ</li> <li>秋の実りの観察，採集</li> <li>菅平地区の畑や旅館施設，公共施設等の調査</li> </ul>	20
小学校 3 年	<ul style="list-style-type: none"> <li>菅平の農業や旅館業について調べ、規模や仕事の内容を知る。</li> <li>身近な昆虫や植物の成長の様子や体のつくり等について調べる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>菅平の高原野菜の生産に関わる農業規模や農家の一年間の仕事</li> <li>旅館業の仕事や歴史等について</li> <li>菅平の自然環境や産業の特徴</li> <li>菅平高原や湿原の昆虫や植物の育ち方，体のつくり，特徴</li> </ul>	24
小学校 4 年	<ul style="list-style-type: none"> <li>菅平の人々が後世に残したいもの，伝えたいもの等、郷土に伝わる願いについて学ぶ。</li> <li>菅平の自然が、農業や観光をはじめ、地域の人々の生活に大きな関わりを持つことを知る。</li> <li>四季を通じて動植物を調べ、季節によって動物の活動や植物の成長に違いがあることが分かる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>菅平を拓いた人々（江戸～）</li> <li>菅平でレタスや白菜，トウモロコシの栽培が盛んなわけ</li> <li>菅平の作物の栽培体験</li> <li>菅平の農業や観光と自然環境の関わり</li> <li>菅平で栽培された作物の変遷</li> <li>菅平のスキー産業の発展</li> <li>菅平高原や湿原における昆虫や植物の季節による成長や活動の違い</li> <li>菅平講演会，スキー講演会</li> </ul>	30

小学校 5 年	<ul style="list-style-type: none"> <li>菅平湿原における動植物や地形を調査し、湿原の歴史や自然環境について学ぶ。</li> <li>菅平の農業の発展と地形や地質、気候などの自然条件との関連について調べる。</li> <li>気温や降水量など、四季の天気の変化について、菅平高原の気候の特徴を知る。</li> <li>菅平の産業や生活における環境問題について考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>湿原の四季を通じた生息動物の特徴調べ</li> <li>湿原の地形や植物分布の変化</li> <li>菅平湿原の歴史（誕生の秘密）</li> <li>菅平の農業の特色・菅平ではなぜ米作りをしないか</li> <li>菅平での米作りへの挑戦</li> <li>菅平高原の天候の特色</li> <li>高原野菜づくりと環境問題</li> <li>菅平講演会，スキー講演会</li> </ul>	42
小学校 6 年	<ul style="list-style-type: none"> <li>菅平にある豊富な黒土を手がかりに、菅平高原の大地ができあがった様子や火山活動について学ぶ。</li> <li>菅平の産業における先人や達人の足跡をたどり、その生き様に学ぶ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>菅平特有の黒土のできた由来</li> <li>火山活動と土地の変化</li> <li>火山灰の堆積とその影響</li> <li>菅平を拓いた人々（昭和～）</li> <li>人工雪が作られるシステム</li> <li>菅平講演会，スキー講演会</li> </ul>	20
中学校 1 年	<ul style="list-style-type: none"> <li>菅平に生きた人々の足跡をたどり、多くの人の努力と苦労によって、現在の菅平が築き上げられていることを知る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>菅平における開拓及び産業の歴史のまとめ</li> <li>厳しい自然環境や災害の克服</li> <li>菅平にかける人々の思い</li> <li>菅平講演会，スキー講演会</li> </ul>	8
中学校 2 年	<ul style="list-style-type: none"> <li>菅平の産業の歴史や、これまで果たしてきた役割、今後の課題等について調べる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>菅平における産業の果たす役割</li> <li>菅平における産業の現状と課題</li> <li>菅平講演会，スキー講演会</li> </ul>	7
中学校 3 年	<ul style="list-style-type: none"> <li>9 年間のまとめとして、「菅平地域が将来更に発展していくためにどのような方策が考えられるか」進むべき方向を考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>菅平における産業の歴史ととられた施策</li> <li>菅平の現状と課題</li> <li>菅平の今後の進むべき方向</li> <li>菅平講演会，スキー講演会</li> </ul>	17

【英会話】

	学年目標	主な内容	時数
小学校 1 年	ゲームや遊び、歌などを通して、英語の音やリズム、簡単な英単語に慣れ親しむ。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 1日のあいさつの仕方</li> <li>・ 日本語になった英語食べ物・飲み物編</li> <li>・ アルファベット大文字を学ぼう</li> <li>・ 英語で数字を言おう</li> <li>・ What is this? これなんですか?</li> <li>・ 動作を表す英語・Who is this? これだれですか</li> <li>・ 曜日の名前を覚えよう</li> <li>・ seasons(四季)を覚えよう</li> </ul>	10
小学校 2 年	ゲームや遊び、歌などを通して、簡単な英会話や表現に慣れ親しむ。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ あいさつの仕方</li> <li>・ 日本語になった英語 動物・スポーツ・服・道具</li> <li>・ アルファベット大文字、小文字</li> <li>・ 英語で数を数えよう</li> <li>・ Which is? どちらですかWhere is? どこですか</li> <li>・ 動作を表す英語</li> <li>・ 動作を表す英語の疑問、否定文</li> <li>・ How old~何歳?How many いくつ~?の表現</li> <li>・ 月の名を覚えよう</li> </ul>	10
小学校 3 年	初歩的な英語を聞いて、意味を理解したり、話したりする活動を行う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 動作英語</li> <li>・ 何色ですか?色あてゲームをしよう</li> <li>・ 時刻当てゲームをしよう</li> <li>・ すきな食べ物、きれいな食べ物を紹介しよう</li> <li>・ 何の仕事、仕事当てクイズをしよう</li> <li>・ 動物の背丈比べをしよう、金額ゲームをしよう</li> <li>・ 数当てゲームをしよう</li> <li>・ 写真を見て世界の国を当てよう</li> </ul>	20
小学校 4 年	日常生活の場面で使われる簡単な英語を聞いたり、話したりする活動を行う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 花と動物を紹介しよう</li> <li>・ 1日の生活を英語で話そう</li> <li>・ 家族の休日を英語で話そう</li> <li>・ 国語、算数、理科、社会、教科の学習を英語で話そう</li> <li>・ スポーツと健康について話そう</li> <li>・ 英語で自己紹介をしよう</li> <li>・ 英語で友だち紹介をしよう</li> <li>・ 日本を英語で紹介しよう・</li> </ul>	20
小学校 5 年	体験的な活動や寸劇などを通して、外国の文化やマナーに触れながら英語活動を行う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 動作を表す英語</li> <li>・ 写真で家族紹介</li> <li>・ 菅平を英語で観光案内をしよう</li> <li>・ 学校行事を話そう</li> <li>・ 買い物英語を身につけよう</li> <li>・ 英語で料理しよう</li> <li>・ 英語劇(役割を決めて簡単な英語劇をしよう)</li> </ul>	30

小学校 6 年	学校や菅平の簡単な英語案内をしたり、紹介をしたりして、外国人と簡単なコミュニケーションを行う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・動作を表す英語を使おう</li> <li>・He, She,を使った疑問文や否定文を使おう</li> <li>・日本のことを英語で話そう</li> <li>・50周年記念を祝おう</li> <li>・地図を見て英語で案内しよう</li> <li>・英語で料理しよう</li> <li>・英語劇(役割を決めて簡単な英語劇をしよう)</li> </ul>	30
中学校 1 年	日常生活で使う英語表現を増やしなが、自分や家族の紹介をする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・複数形, 三単現, Wh 疑問文, 代名詞, 進行形</li> <li>・助動詞 can, 過去</li> <li>・1 学年の復習</li> </ul>	30
中学校 2 年	日本や外国の文化を英語で表現したり紹介したりする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・過去表現、未来表現、不定詞</li> <li>・助動詞, if・When などの接続詞, 動名詞, 存在など</li> <li>・比較表現を学習</li> <li>・2 学年の復習</li> </ul>	30
中学校 3 年	地元菅平の自然や文化、伝統について英語で紹介する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・過去分詞を使った表現(受身, 完了形)</li> <li>・マザーズララバイ</li> <li>・名詞の後置修飾について学習</li> <li>・フレディー</li> <li>・3 年間の復習</li> </ul>	30

【「すがだいらの時間」新設後の教育課程表】

【小学校】																		
(区分)	教科等	各教科の授業時数										道徳	特別活動	総合的な学習の時間	すがだいらの時間			総授業時数
		国語	社会	算数	理科	生活	音楽	図工	家庭	体育	スキー活動				歴史文化産業	英会話		
学年																		
1 学年		272		114		102	68	68		90	34	34		15	15	10	822	
														+	40		+ 40	
2 学年		280		155		105	70	70		90	35	35		15	20	10	885	
														+	45		+ 45	
3 学年		235	70	150	70		60	60		90	35	35	51	20	24	20	920	
													-54	+	64		+ 10	
4 学年		235	85	150	90		60	60		90	35	35	50	15	30	20	955	
													-55	+	65		+ 10	
5 学年		180	90	150	95		50	50	60	90	35	35	33	15	42	30	955	
													-77	+	87		+ 10	
6 学年		175	100	150	97		50	50	55	90	35	35	53	15	20	30	955	
					+2								-57	+	65		+ 10	

【中学校】																		
(区分)	各教科の授業時数											道徳	特別活動	総合的な学習の時間	すがだいらの時間			総授業時数
	教科等	国語	社会	算数	理科	音楽	美術	保健体育	技術・家庭	外国語	選択教科				スキー活動	歴史文化産業	英会話	
学年																		
1 学年	140	105	105	105	45	45	90	70	105		35	35	42	30	8	30	990	
													-58	+	68		+10	
2 学年	105	105	105	105	35	35	90	70	105	50	35	35	48	30	7	30	990	
													-57	+	67		+10	
3 学年	105	85	105	80	35	35	90	35	105	120	35	35	68	10	17	30	990	
													-47	+	57		+10	

(4) 憲法、教育基本法上の理念、及び学校教育法に示される学校教育の目標との関係

上田市では、幼・保・小・中一貫した教育「かがやけ上田の未来っ子」の更なる前進を図り、「大好き上田、やる気いっぱい、笑顔いっぱい」のテーマの下、「愛」「学び」「つながり」の視点で「ふるさとを愛し、興味や探求心をもって自ら学ぶ意欲を大切に、家族や地域のつながりの中で、生きる力を身につけて欲しい」という願いを込めて、心豊かな人づくりとまちづくりを目指している。

本計画では、地域振興に果たす教育の役割を踏まえ、菅平地区の明日を担う人づくりを目標に掲げ、豊かな自然と地理的条件を生かし、校技としてのスキー活動や江戸時代から始まった開拓の歴史と文化等を核に、小中併設校の利点も生かしながら、小中一貫教育の良さを最大限に活用することで、郷土に学び、郷土を愛する心を培い国際化に対応するコミュニケーション能力の育成を目指したものである。

このことは、教育基本法が「教育の目的」として掲げる「社会の形成者として必要な資質」を期し、同法では「教育の目標」として、また、学校教育法では「義務教育として行われる普通教育の目標」として掲げる内容に適合し、正に合致するものとする。

また、本計画においては、新設する「すがだいらの時間」を介し、或いは現行の各教科において小学校・中学校の教職員が共通した学力観、指導観をもつことにより、校種の違いから生じる児童・生徒の負担を軽減し、より効率的で効果的な学習活動を実現するために、9年間の連続性・継続性を重視した教育課程の実施も目指すところであるが、このことは、「教育を受ける者の心身の発達に応じ、体系的な教育が組織的に行われなければならない」とする教育基本法第6条にも沿ったものとして理解するところである。

なお、本計画を実施した場合においても、憲法第26条及び教育基本法第4条で謳われる最低限度の教育は保障されるものと認められる。

また、「すがだいらの時間」の設定のために、「総合的な学習の時間」については時数を削減するが、教科での学習内容を更に深めたり、課題を設定して追究したりすることにより、学習指導要領に定める目標を十分達成することができるものとする。